

## 平成 28 年度第 4 回小学校ゼミナール記録（小村班）

参加者：小村（授業者）、田原，西

### 1. 協議事項

広島大学附属小学校研究大会の振り返り

小学校算数科第 4 学年「しりょうと整理」における授業の反省

### 2. 協議内容

2月11日（土）に広島大学附属小学校で実施された、小学校算数科第4学年「しりょうと整理」における授業についての反省を行った。本授業は、PPDAC サイクルの「データの収集とデータ表の作成（Data）」を意識している。ゆえに、児童が資料を分類・整理する活動の中で、目的にあった資料を選択し、二次元表を活用するよさについて気づかせることを目的とした授業が実施された。授業の中では特に、限られた時間の中で、どのように児童が自主的に目的にあった資料を選択し、まとめることができるかに注目した。本協議で議論されたこの授業の反省点は次の二点にまとめられる。

#### ○グループ学習について

本時では、お互いに意見を交流させながら表にまとめていくことを狙いとして、グループ学習を行った。その際に、グループで一つの表をまとめるという案もあったが、あくまでも自分の意見を持って交流することを目的としていたため、それぞれが表を作成し、その中で交流することを期待した。研究授業ということで、児童の活動中に参加者が見て回ってもよいとした。そのために、多くの参加者で児童たちはお互いに交流ができず、グループ学習の効果が薄れたことを反省とした。

#### ○時間の制約について

本時の授業における時間の制約について議論をした。一時間の授業の中で、資料を整理する目的について児童と確認した後に、児童自らが必要となる資料を選択し、表を作成することまでが求められた。計画の際に時間が足りないということから、前時に児童が必要となる資料について考えさせ、どんな資料が必要かと児童にまとめさせる時間を削るために、教師の方が事前にまとめて2つの資料を提示した。もう一つの目的としては、2つの資料に絞ることで、児童が活動しやすいことを狙っていた。

結果としては、表までまとめることまでは時間内に収まった。しかし、2つの資料に教師の方がまとめたことにより、児童の主体性が奪われ、また、教師が2つにまとめたことによって、何を意味しているのか、何をすればよいのかなど戸惑う児童が出てしまった。ゆえに、どの場面を児童に活動させるのかということとその学年の時間数だけで考えるのではなく、各学年を通じて定め、焦点化していく必要があるという議論で話し合いを終えた。

（文責：田原 慶了，西 宗一郎）